

徹底解剖!

ゆうちょ銀行の実力

郵政民営化の見直しなど 紆余曲折を経て上場に至る

第1回 日本郵政グループ3社の上場までの経緯

日本総合研究所
上席主任研究員

藤田 哲雄



日 本郵政株式会社および傘下の金融2社、ゆうちょ銀行とかんぽ生命保険が11月5日に同時上場した。ゆうちょ銀行は、郵便局の窓口を主要なチャネルとして全国にサービスを提供する身近な存在であるが、近年はかつての郵便貯金の時代から目まぐるしくその姿を変えてきた。

巨大金融機関であるゆうちょ銀行は、上場により収益力強化に舵を切ることが予想され、民間金融機関にとって大きなインパクトとなることが予想される。

本連載では、ゆうちょ銀行の金融機関としての実力を明らかにするとともに、今後の経営戦略について概観する。

①日本郵政グループの概要
まず、今般上場した日本郵政、ゆうちょ銀行、かんぽ生命について概要を確認しておこう。日本郵政は持株会社であり、傘下にゆうちょ銀行（金融）、かんぽ生命（保険）、日本郵便（物流）の3社を擁する。2015年3月期の連結ベースでの資産総額は29

5・8兆円、経常収益は14・2兆円と国内では比類のない大規模な企業グループである。

傘下の事業会社についても、ゆうちょ銀行の総貯金残高は177・7兆円と民間金融機関最大の三菱UFJフィナンシャル・グループの預金残高153・3兆円をも上回る。かんぽ生命が保有する個人保険の件数も1353万件と国内最大規模である。

言うまでもなく、このような大規模な企業グループが誕生したのは、かつて郵便事業や貯金事業、簡保事業という郵政3事業が国営であったことが背景にある。このような民営化された国営企業の上場は、これまでもJRやNTTなどの例があるが、今回の3社の時価総額は10兆円、市場からの調達額は1兆2兆円規模になるとみられ、21世紀最大の新規上場であるといわれている。

本連載の目的は、ゆうちょ銀行の実力を明らかにし、その将来像を考える手がかりを提供することにある。そのためには、日本郵政グループの中のゆうちょ銀行の

金は、①国営であるため安全資産である、②全国にネットワークを持つため利便性が高い という特徴を持つていた。

戦後復興の過程で郵便貯金は量的に拡大するとともに、財政投融資の原資として組み込まれるようになる。財政投融資とは、政策目的の実現のために行われる政府の投融資活動である。

郵便貯金や年金積立金は大蔵省資金運用部に預託され、財政投融資制度を通じて国が公団や公庫などの特殊法人に対して有償資金を提供。特殊法人がそれを原資として事業を行い、一定期間経過後に資金を償還する。この財政投融資の「資金の入口」として、郵便貯金は大きな役割を果たしたのであった。

郵便貯金は戦後の経済成長とともに残高が増加し、1960年には1兆円を超えた。これは当時のGNP16・6兆円の約6%に相当する。1960年代前半の公社債

投資を中心とする証券ブームで郵便貯金増加の伸びは一時鈍化したものの、1965年の証券恐慌を境に再び個人金融資産は預貯金へと向かった。増加の伸びでは、郵便貯金は銀行の個人預金を上回ったが、これにはいくつかの要因があった。

第一は、郵便貯金の主力である定額貯金の商品性である。定額貯金は最長10年間の預入期間で金利は預入時の利率が半年複利で元加され、高い利回りが保証されていた。6カ月の据置期間が過ぎれば随時払戻しが可能であり、流動性も具備していた。

このような定額貯金の特異な商品性は、戦時中に国民貯蓄の増強を図るために設計され、戦後の数回にわたる改正後にもその基本的構造が引き継がれたためであるといわれる。預入時の金利が最長10年間適用されるメリットがあることから、金利の低下局面では銀行預金などから大量の資金シフトが生じた。

第二は、郵便局数が毎年増加したことである。戦後の護送船団式の金融行政のもとで、銀行の支店開設は極めて抑制的に認可されていたのに対し、郵便局は無集配局

位置づけを明らかにするとともに、歴史的に郵政事業がどのような経緯で現在の姿に至ったかを把握しておくことが有益である。

そこで、今回は3社同時上場に至るまでの経緯を簡単に振り返っておきたい。

定額貯金の商品性と郵便局数の増加で残高拡大

②郵便貯金の創設と発展

郵便貯金事業は、郵便事業の創設から間もない1875年（明治8年）に創設された。日本の郵便

事業の父、前島密が郵便事業と貯金事業を兼営している欧州の事例を参考にしたといわれる。

その設立趣旨は、近代的金融機関が全国的に未発達な状況のもと、国民に簡易かつ確実な少額貯蓄手段を提供し、低所得層に貯蓄を生み出すことにあった。郵便貯金では貯金のほか為替（送金）の機能も提供された。

郵便貯金の創業当時は国民に貯蓄の習慣がなかったものの、貯蓄教育が普及するに従い、郵便貯金の残高も増加していった。郵便貯

の残高も増加していった。郵便貯